

# 健康と光線

発行所

〒153  
東京都目黒区目黒  
4-6-18

サナモア光線協会

年4回発行  
会費年500円  
電話 東京(03)  
3793-5281  
3712-5322

## 急増するアレルギー性疾患

杉の花粉が飛散する春先になると、テレビを始めマスメディアは一斉に花粉情報を流します。しかし、たかが杉の花粉で、このように大騒ぎをするようになったのは、精々ここ10年前後のことです。信じ難いかも知れませんが、昭和30年代には、杉の花粉が花粉症を起こすことに気が付いていなかったのです。

しかるに昨今、杉花粉症だけでなく、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、喘息などのアレルギー性疾患は軒並み猛烈な勢いで増えています。そして今や、日本人の30%から40%がアレルギー体質といわれるほど急増しました。

では、何故、それも最近になって、アレルギー性疾患は急増したのでしょうか。

## アレルギー性疾患の

### 原因は何か

アレルギー性疾患の中で、一躍有名になった杉花粉症でいう

なら、杉の花粉は昔からあった筈です。それにも拘らず、杉花粉症は話題にすらならなかったのです。これ以外のアレルギー性疾患にしても、現在、原因とされている事柄は、何れも昔からあったものばかりです。この点から、最近の日本人に起きた何かが日本人の体質(内因)を変えたと考えざるを得ないのです。

## アレルギー性疾患の光線療法

### 免疫応答の調節

サナモア中央診療所  
医学博士 宇都宮 光明

### 光明

つまり、アレルギー性疾患を誘発し、悪化させる外因については、ある程度まで明らかにされましたが、誰もが一番知りたいたいの、何故、アレルギー性疾患に罹病したのか、すなわち内因(体質)の変遷については解決の糸口すらなく、殆ど未解決のまま放置されているのが実情です。これでは患者は救えませんから、将来に亘って益々アレルギー性疾患は増え続けると予測されます。

しかし、原因究明は、外因の論議で大半は終わっています。例えば、杉花粉症の患者が増えたのは、戦後、大々的に杉の植林をしたために飛散する杉花粉の量が増えたとか、山の麓に舗装道路や家屋ができたため花粉が飛散し易くなったと説明し、マスクをして花粉を避けるように指導します。このようにアレルギー性疾患の原因として、環境因子(花粉症ではスギやブタクサなど)、食事(牛乳や卵を始め、極論すれば大部分の食物)、

### 外因を避けるだけの

### 治療で良いのか

アレルギー性疾患の治療に際して、現在、最も重視されているのは、前述したように外因を避けることです。すなわち、花粉に接しないようにしろ、牛乳や卵を食うな、よく掃除をして部屋を清潔にしダニを避け、室内でペットを飼うな等々です。これを専門用語で抗原回避指導といいます。

抗原回避指導は、アレルギー性疾患の人は前以って抗原(外

因)で感作されていて、これに対応する抗体(内因)を体内に持っているため、次の機会に同じ抗原が作用すると抗原抗体反応を起こし、不都合な症状を引き起こすために行われています。すなわち、抗原を避けることでアレルギーを防ぐという事です。すなわち、アレルギーを起こしてから対症療法をするよりはましかも知れませんが、しばしば過度の恐怖心を抱かせる恐れがあります。殊に食物については難しい問題があります。すなわち、アレルギーを誘発する要因として、今の豊かな食事があらかた患者にされていますので、真面目に守ろうとすると食べるものがなくなっ

てしまいます。私は半ば冗談で、食べれるのは「素うどんだけですね」と話すことがあります。これでは間違いなしに栄養失調になってしまいます。

アレルギーを起こす外因を見付けて禁じることが必要としても、それでこと足れりとする考えには重大な欠陥があります。どうして個体の反応の仕方が変わったのか、この点が明らかにされるまで、患者は再発を繰り返し、治らないと諦めるしかありません。

**光線療法で体質を改善**

近年、光線が個体の免疫応答を正しく調節する上で不可欠な働きをしていることが明らかにされました。すなわち、ビタミンDやカルシウムが不足すると、免疫を担当する細胞の生成が妨げられ、その機能が阻害されるため、免疫応答に異常を起こし、アレルギー性疾患に罹病する一因になります。

この観点から、サナモア中央診療所では各種アレルギー性疾患の治療をする際、原則として禁止事項をもうけることなく、カルシウムを多めに摂取することと以外に食事も自由に、光線療法を継続して使用し、明らかな効果を認めています。これは光線の内因(免疫応答の調節)を強化する作用がアレルギー性疾患の治療に効果のあることを示しています。





「自転車」

宇都宮義真撮影

讃  
光  
譜

## 治療に病名は必要か

誤解のないようにして貰いたいのですが、病名はあったほうが良いことはいうまでもありません。第一、安心感が違います。でも、病名が分からなければ、絶対に治療をしてはならないものなのでしょうか。薬や手術が進歩していなかった昔は、病名は余り重要視せず、何処でも悪いところに手を当てて治療したはず。そのため、今でも治療することを手当てをするとい、治療が遅れることを手遅れといっているくらいです。しかし、薬物療法や手術療法が発達するにつれて、病気の治療は薬を使うか手術をするかしかないとと思われるようになると、病名がないとどうしても治療ができないということになったのです。これは、薬も手術も、一方に良ければ一方に悪いという場合が多いからです。

## 万病の特効薬もある

そうは言っても、薬でも、病名に関係なく使われている場合

が結構多いのです。人間は頗る身勝手なものですから、痛いとか熱があるとかすると、薬を貰わないと我慢できません。そこで、解熱鎮痛剤（アスピリンのような薬）という重宝な薬が多用されることになりましたが、あくまでも一時しのぎの対症療法に過ぎませんから、病気を治すだけの力はありません。それにも拘わらず、いろいろな病気で特効薬のように使われているのは、自然良能で治ったのを薬で治ったと錯覚しているからです。

## 病名は分かっていたが

## 治療法はない

病名が分かれば、恐らく薬がですが、必ず効く薬があるかといえば、そうでもありません。例えば、よく知られているように、風邪薬と称する薬がいくらかあっても、未だに本当に風邪のウィルスに効く薬はないのと同じです。そのため、難しい病気では、半年も一年もかかって精密検査を受け、いよいよ病名は分かっていたが、効く薬もなければ手術もできないということもあります。

## 誤診ならどうする

尤も、すべての人が正しい診断を受けられればそれに越したことはありませんが、診断は甚だ困難なこともあり、名医も往々誤診することがあります。その

## 病名不要の治療法があってもよい

宇都宮 義真

ためかどうか知りませんが、誤診は罪になりません。しかし、もしも誤診で薬を飲まれたのでは、無駄であるばかりか、治療には却って有害なはずで

## 光線療法の特徴

元もとは太陽光線の作用を応用した光線療法は、薬や手術と違って何病かの治療法として作られたものではありません。その根本原理は、自然良能（自分で治そうとする力）を高める点にあります。したがって、大体において病名に関係なく効果があります。実際に使う方の多くは、まず薬物療法や手術療法を試してみ、その効果に満足できない場合です。でも、そんな習慣は捨てて貰って、始めから使う方がずっと良いのです。病名が決まる前でも気にしないでください。その時期の方が治り易いのです。

これをものに例えるなら、自動車は道路や橋が分からないと走れないから飛行機にしようというようなもので、飛行機なら道も川も調べる必要はないのです。光線療法が、光線療法に慣れ親しんだ一般の人びとに喜ばれているひとつの理由は、さほど診断にこだわらなくても良いからでしょう。

「健康と光線」  
昭和37年6月5日発行  
―病名不要の治療法があってもよい―





ウエノ光線療研会長 上野 貞先生には、

平成三年三月九日、午前八時三十分、急性心不全で逝去されました。享年八十八歳。

同日、近親者による仮通夜が自宅で営まれ、追って神戸の仏教会館に於いて、三月十日、午後七時より本通夜、翌三月十一日、午前十時より告別式が、厳粛なうちにも、しめやかに執り行われました。

告別式では、兵庫県療術師協会会長、伴茂氏より、故人の徳を讃え、面影を彷彿とさせる弔辞が読みあげられ、会葬者一同に深い感銘を与えました。

## 上野 貞先生急逝

になろうとは考えてもみませんでした。

先生は、その人柄、見識、そして並外れた行動力で、つとに英名を馳せていました。関西を拠点にサナモア光線療法を普及したのは、偏に先生の尽瘁の賜物です。今次大戦の敗戦により、身ひとつで樺太から引き揚げられ、戦後の混乱の真只中に神戸で光線治療を始めた頃のことを、本年の一月号に、「リュックサックの思い出」の題で書いて下さいました。顧みて、先生が私ども後輩に、信念を以て努めよと叱咤激励しているように思われてなりません。

サナモアと四十八年、先生はひたすらその普及に尽力されました。その甲斐あって、先生が

世話した多くのサナモアの愛用者やお弟子さんに囲まれて、またお仕事の大半を健太郎先生に任せられて、悠々自適、百才まで生きると言われていましたのに、忽然として幽明境を異にされてしまいました。正に痛恨の極みです。しかし、先生の熱心な指導と薫陶によって成長した多くの後進が、先生の偉大な足跡を偲び、先生の意志を継いで、先生が意図したことを成し遂げるため、満身の力を注いで活躍しています。どうか、冥界から見守ってください。

万感尽きませんが、先生のおりし日を偲び、深くご冥福を祈りながら、謹んで哀悼の意を表します。どうか安らかに眠り下さい。

## 偉大な足跡を 偲ぶ

宇都宮 光明

上野 貞先生が、平成3年3月9日の朝、急性心不全で突然倒れられ、午前8時30分に不帰の客となられました。その訃報に接した時、事の意外さにただ茫然として、闇夜に光を失った思いで立ちすくんでしまいました。先生は、正に掛け替えのない道標だったのです。

3月10日、午後7時から通夜  
3月11日、雨の中、午前10時から告別式が、ご長男の上野健太郎先生を喪主に、参列した総べての人々の深い悲しみの中に、神

式に則って厳粛に執り行われました。

先生には、治験例報告を始め、様々な文書を寄稿して戴きました。今回、電話で治験例をお願いした時も、こちらが何も言わ



告別式 於仏教会館

ないうちに、「治験例でしょう。直ぐ書いて送るから」と日頃と全く同じ調子で元気に言われたそうです。そして、今では最後となった治験例が投函された日付は3月2日です。これが遺稿

母は、樺太に居た頃から五十年余、サナモアと共にありました。この間のエピソードで印象深いのは、やはり戦後はじめて光線療法を生活の柱にしようとした頃のことです。母は外地からの引き揚げ、宇都宮義真先生は未だ戦地で連絡のしようがありません。不安の中に、先生の復員を待ちました。

先生が復員されたとの知ら

## 母の思い出

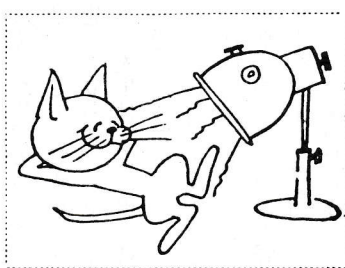
車にゆられ、木炭バスやトラックを乗り継いで会いに行ったのです。周囲の親戚の批判や反対を押し切って、自分

の主人さえ信用してくれない状況での行動ですから、その決断力と実行力には頭が下がります。このバイタリティーが、その後の活動の推進力になったと思います。とりとめもないことを記しましたが、生前のご厚誼に感謝し、会葬のお礼とさせて戴きます。

ウエノ光線療研所

上野健太郎





## 一治験例報告一

### ☆眼筋マヒ

症例1 60歳 男性

症例2 27歳 女性

は左眼を急に左右に動かさなくなり、真直ぐは見えるが横を見ると目の位置がずれて複視(ものが二つに見える)になる。

療法経過 眼にはBカーボンで、両眼(一号集光器)10分、患側の眼(二号集光器)に前から20分、小脳(後頭部)30分、その他はAカーボンで、腹5分、膝5分、足裏20分、腰5分、背5分、朝夕二回照射した。

その結果、数日にして眼は少し動くようになり、症例1は二週間、症例2は一週間、ほぼ治癒した。なお両名ともサナモアを持っていたので、続けてAカーボンで照射するように指示した。

TEL07七八一三三二一三三五八

神戸市 ウエノ光線療研  
上野 貞氏報告

### ☆眼底出血

症例 80歳 女性

症状 以前から片眼は失明、残った片方の眼も数年前に白内障と診断されている。今回、急に視力がなくなったため眼科を受診したが、原因は白内障ではなく眼底出血のため手術はできな

いと診断された。

療法経過 眼はBカーボンで5時間位その他の部位、すなわち後頭部、咽頭部(甲状腺)、肩甲部、背、腰、足裏、足首、膝、腹(肝臓部は入念に)はAカーボンで気持ちの良い間照射した。

治療を始めて四、五日後には視力が始めたが、継続して治療するように指示した。

春日市 育美健康光線療研  
前田 ミサ氏報告

TEL09二一五八一二〇三九

### ☆ブドウ膜炎

症例 51歳 女性

### 「愛用三者」だより

### ☆中耳炎

帯広市 柿沼秀子

長い間中耳炎で苦しみ、思

いあまって大学病院で手術を受けました。これで治癒出来ると期待していたのですが、術後の調子が悪く、形成術した鼓膜に穴があいて膿が出てくるようになり、頭が右半分どんよりして自分の頭でないような感じでした。抗生物質を飲んでその時だけで、薬を止めるとまた繰り返すので、姉の紹介でワラをも掴む思いでサナモアをかけ始めました。

症状 昭和61年12月初診。患者は光線療法を始める四年前から、眼の痛み、眩しき、膿のような涙を訴え、眼科で虹彩、毛様体、脈絡膜の炎症(ブドウ膜炎)と硝子体の混濁を指摘され治療を受けていたが、改善の兆しがなく、紹介されて来院した。

本例は結節性紅斑を合併しており、ベーチェット病を疑われ、視力低下の恐れがあると言われていた。

療法経過 適宜、A BカーボンとB Dカーボンを使い、二灯照射法を用いた。照射部位ならびに時間は、側臥位で顔(眼部)30分、肛門、足首、腰、膝、腹、膝裏、足裏、後頭部に各10分、仰臥位で左右の耳、肩、横腹、膝裏、足首に各10分である。

治療を始めてから、眼症状は一進一退を繰り返したが、徐々に結膜の充血が見られなくなり、自覚症状も改善したので、平成

始めのうちは液が大量に流れ出ましたが、徐々になくななり形成した鼓膜は1回穴があくと駄目だといわれていたのですが、穴が少ずつ小さくなり、約4ヶ月かかって閉じてしまいました。現在、水泳もしても良いといわれています。

なお、15年来のジンマシンでヒスタミンと縁が切れなかったものですが、自然に治ってしまった薬は一切飲まない主義になりました。カゼをひかなくなったことも含めサナモアの恩恵に感謝しています。

### ☆10月に出産予定

川崎市 四宮香子

ところが、結婚して4年間、子供に恵まれなかった私達に、子供が授けられました。10月の出産予定です。サナモアを使わせて頂いたお陰です。本当に感謝が止まりません。長年の冷え症も治り、身体も暖かくなってきました。どうもありがとうございました。

### サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA、B、C、Dカーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともども愛用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。

ところが他社製カーボンには「光線療法学」をセットしたり、サナモアA B C Dと効果が同じという根拠も確かなない文句で互換表を添付して販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので、ご注意下さい。

(サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標「B」のマークが必ずついています。)

東京光線療法研究所

1年2月から、時々通院治療をしながら主に自宅治療にした。

川崎市 東京光線治療院

海渡二二三氏報告

TEL04四一七二二一五〇六七

後記…今回、寄稿して戴いた治療例は、奇しくもすべて眼の病気です。しかし、使い始めは半信半疑だったようです。

上野先生は、「こんなの治りますか?」と聞かれ、一良くなれば真つ先に本人が分かれますよ」と答えたそうです。前田先生も、「母が眼底出血を起こし目が見えなくなったのですが、光線は駄目でしょうか?」と相談されたので、四、五日して、「先生、母が目が見えると言っています。皆で光線の偉力に驚いています。本当に有り難うございました」と再び連絡があったので、「お母さんに、これからもずっと続けて、積重ねで体質から改善するようにお伝え下さい」と返事したと知らせてくれました。

それぞれに得難い効果が報告されていますので参考にして下さい。



# 光線療法の脳障害、

## 時差ボケに対する治療効果

ウエノ光線療所

上野 健太郎

### 緒言

光線的作用を利用した光線療法を、脳梗塞ならびに脳血管性（老人性）痴呆の治療に応用して得られた成績と、時差ボケ（時差症候群）の回復に用いた結果について報告する。

### 症例および成績

#### (1) 脳梗塞

**症例** 80歳 女性 体重80kg  
本症例は同居している実母である。

昭和60年1月31日、夜の二時過ぎ、炬燵に手をついて立ち上がろうとした時、急に頭がクラ

クラして倒れた。直ぐに呼ばれて側に寄って見ると、左半身が麻痺していた。

直ちに、身体を動かさないうでそのままの姿勢で光線照射を始めた。先ず、右側頭部を2時間、その後、足裏を2時間連続して照射した。それからパジャマに着替えさせて布団に寝かせた。

翌日からは、頭部に30分、足裏に1時間照射したほか、腹、腰、背、顔面、膝に各10分の照射を一日に二回、三日間行った。四日目には倒れてから生じた左の腕にあったむくみが無くなり、左手、左足の感覚が少し戻った。その後は、各部位の照射時間を10分にし、一日二回にしたが、この頃から病人が自ら治療器を操作して自己治療を始めた。な

お、カーボンAB、ADの組み合せを交互に使用した。

発作を起こし治療を始めて三週間過ぎた頃には、杖なしで部屋の中を歩けるところまで回復し、九週間目には普通に歩いて出掛けるようになった。

発病して三ヶ月目に精密検査のため初めて病院に行き、脳のCT検査を受けたが、検査の結果は病変の痕跡が見当たらないとのことであった。その頃には、起居動作は全く元に戻ったが、左手の指先に薄紙を貼ったような違和感が残っていると訴えていた。しかし、八ヶ月経った時、その微かな感触の異常が何時の間にか無くなっていることに気が付き、本人も完治を実感した。

#### (2) 脳血管性（老人性）痴呆

**症例** 60歳 男性

奥さんの話では、商社会社の部長を勤め、穏やかな人柄で大きな声を出すこともなかったが、定年の二年前に俗にいう窓際族になり、その一年後頃から痴呆症状が出てきたという。

ズボンを着こうとして足がうまく通らない。イライラしてズボンを掴んで投げる。ベルトを抜いて投げるときもある。奥さんが「どうしたの」と声をかけると、ブツブツ言いながら怖い顔をして睨む。「うるさい」と怒鳴る。帰宅して玄関のドアがロックされていると、ハンドドルをガタガタいわせて家の者が開けるまで止めない。その間も大きな声で怒鳴るので、隣家の人を驚かせたこともある。こういった調子で、あの温厚な人がと驚くほどの変わり様であった。退職してから、更に輪をかけてように酷くなる。プイと外に出掛ける。歩くのも前につんのめるようにセカセカ歩く。それも真っ直ぐに直線的に歩く。家の中の部屋のドアが分からなくなる。洗面所のドアが分からな

い。  
退職して五ヶ月後に、紹介されて来所、光線療法を始めることになった。

光線療法は、顔面、後頭部を中心にし、ほかに全身照射として足裏、膝、腹の前後、背に各10分、一日三回を標準にして続けた。概ね指示した通りにやっていたが、一ヶ月余りして、奥さんが「大分変わってきた」という。大声で怒鳴るのが減った。苛つくのも少なくなった。癪にさわって物に当たったり、怖い顔をするのも見られなくなった。三ヶ月位する頃から、歩き方が変わり、余りセカセカしなくなり、帰り道が分からなくなることもなくなった。一年経った頃、目に止めることもなかった書物を手に取って見ている。その後、二年間ご無沙汰していた年賀状を自分で書くようになったのである。

#### (3) 時差ボケ（時差症候群）

**症例** 52歳 男性

（六ページへつづく）



## (五ページよりつづく)

本例は光線療法について約10年のキャリアがあり、病気の治療には使っている。

久し振りに会った時、「弱ってるんだ」と時差ボケについて相談を受けた。要点は、社用で

年に二、三回の海外出張があり、一回行くと一ヶ月から二ヶ月位滞在するが、三、四年前から、出張する度に一週間位時差ボケが続き、疲れるし、眠れないし、集中力や判断力が鈍くなるのが分かるという。

そこで、時差ボケ(時差症候群)を起こす理由は、ジェット機のような高速交通機関で遠隔地に移動した際に、日照がもたらす外界の昼と夜のリズムが、身体が記憶している昼と夜のリズム(体内時計)と合わなくなるためだが、この生体のリズムは、光線が視覚を介して自律神経・内分泌系の中枢に作用して形成されることを説明し、是非とも光線療法をするようにすすめた。

具体的には、ADカーボンで、顔面30分、後頭部と背中に合わせて30分照射するように指示した。この際、目からの光の刺激が最も大切なことを話した。

その後、これまで五回の海外出張の経験では、光線療法をする調子は良く、時差ボケは大体二日位で平常に戻るようになった。なお、体内時計の0時前後に照射した時は、一日で回復したと言っていた。

## 総括

光線は光化学物質(光産物)を生成し、その作用を介して、血管を拡張し、心拍出量を増し、全身の血液循環を改善するため、脳梗塞や脳血管性痴呆のような脳血管の血行障害の治療に有益な効果がある。また視覚を介して自律神経・内分泌系に作用し、精神状態や日周リズム(体内時計)を調節していることも明らかにされている。

さて、脳梗塞の場合、病状の進行を抑え、回復を促す上で、初期の迅速且つ適切な長時間照射を欠かすことは出来ない。また、その後の経過を注意深く観察しながら、しっかりした継続照射をしたことが好効果を生む決め手になったと考えられる。痴呆については、高度高齢化社会では四人に一人はボケると言われているが、避けようとして避けられるものでなく、むしろ

戦うという意識、姿勢が大事である。その際、光線療法は威力ある頼りになる武器になる。独断と偏見の排りを受けるとしても、光線療法さえあれば、ボケは恐くない、と憚る事なく言いたい。

時差症候群の成因に、視覚を介する光線の作用が関与していることは、今では疑問の余地はない。したがって、この面における光線療法の効果については、今後、更に事例を増やして検討を重ねる所存である。

(本論文は、平成2年11月に開催された第二回日本療術学会において発表した内容をまとめたものである。)

## サナモア体験談募集

サナモア体験談を「愛用者だより」として掲載させて頂きましたが、サナモアのさまざまな効果は体験しないと信じられないところがあります。そこで「サナモア体験談」を募集しサナモアの理解に役立てたいと存じます。ついては体験談を原稿用紙2枚程度にまとめてお送りください。なお原稿をお送りくださった方には薄謝を贈呈します。



サナモア光線協会

趣意書

天地創造の昔から、真の光、即ち太陽光線は、私たちに限らない恩恵を与えています。サナモア光線療法は、この太陽光線の健康増進・疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従つて、目に見える可視光線だけでなく、目には見えないが無くてはならない紫外線や赤外線を目的に照して適切に放射しなければなりません。

このサナモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙・普及活動を行うためサナモア光線協会を設立しました。サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL (03) 三七九三—五二八一 (三七一—五三三二)

(本紙の無断転用を禁止します。)